

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組（継続含む）
愛と笑顔が あふれる福祉村 一新	集 地 域 で 支 え 合 い、 ふ れ あ い、	高 齢 者	高齢者の孤立防止や社会参加、健康や体力維持に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション住民との交流を図ることが難しい。 ・人との接触を好まない高齢者への声かけがむずかしい。 ・地域行事の世話人の減少 ・高齢者の外出機会が減少し体力維持がむずかしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション住民に対し、地域行事への参加を促す ・既存行事の周知による誘い込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション管理人との連携を図る ・住民向け回覧チラシの作成（回覧方法、デザインの工夫） ・ふれあいランチの継続 ・ふれあい・いきいきサロンの拡充
			高齢者の生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活意欲が向上するような趣味や楽しみを持たない高齢者が多い ・詐欺などの犯罪被害が増加している ・免許返納後の移動手段が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に立ち寄ることのできる「集いの場」づくり ・高齢者リーダー作り（マンション内も） ・認知症サポーター養成講座の実施（ささえりあとの連携） 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康マージャン ・年末助け合い見舞い品配付
			認知症高齢者に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題があり認知症高齢者に関する情報把握が難しい ・認知症高齢者への接し方が分からない 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症見守り隊 ・ささえりあ中央との連携
	ま 障 が い 者 の 自 立 と 支 援 の	障 が い 児 ・ 者	障がい児・者の情報把握	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児・者に対する知識が乏しく障がい児・者への接し方が分からない ・個人情報の問題があり、障がい児・者に関する情報把握がむずかしい ・障害に関する行政の取り組みに関する情報が無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを含めた多様性の理解・啓発活動 ・多世代・多様な人が集う場所づくり（障がい当事者を交えた茶話会等） ・障がい者が利用できる施設の周知 ・行政や民間団体の取り組みに関する周知 ・育成会や希望の家との連携（知的障がい・発達障がいに関する相談窓口、地域住民への啓発活動、体験学習） ・学校との連携（学校行事を通して地域との繋がりづくり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各種団体、各種施設及び民生委員との連携強化 ・一新校区福祉祭り、校区運動会等イベントの活用 ・校区全体で「障がい」をテーマとした話し合いの実施 ・体験学習会の開催（育成会との連携） ・障がい者支援センターちゅうおうとの連携（障がい者サポーター研修の実施、地域配布物の依頼） ・学校との連携（地域行事の周知）
子 ど も の 地 域 が 育 て る	子 ど も ・ 子 育 て	子育て家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の周知が行き渡っていない ・個人情報の問題がありひとり親家庭に関する情報把握が難しい ・子どもの遊び場がない(もしくは少ない) ・虐待・ひきこもり・いじめ・不登校など外部から見つけることは難しい ・共働き家庭やひとり親家庭において放課後の児童の居場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に参加しやすい雰囲気づくり ・居場所のない子ども達に対する新たな居場所づくり→子どもを介しての集いの場 ・子どもの遊び場づくり（小学校の運動場開放） ・子ども食堂の検討 ・情報発信方法の工夫（掲示板、SNS、QRコード） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童見守り隊 ・子育てサークルの充実 ・不登校児童の見守り（いっぽクラブ） ・子育て支援に対しての積極的協力 ・学校と藤崎台童園の連携（不登校児への取り組み） 	
常 に 備 え、 共 同 意 識 の 高 い ま ち	災 害 ・ 防 災	災害時における避難に関すること 災害時の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路における危険箇所が把握できていない ・在宅避難をする場合に情報や支援物資が届くか不安である ・ハザードマップに盛り込む内容が薄い ・日常的なつながりが希薄な場合、お互いに情報が得られず支援が出来ない ・家庭内の備蓄食糧の確保不足 ・避難訓練が出来ていないため大規模災害時に不安がある ・近隣同士の助け合いが重要だと思うが、何をすればいいかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者・子育て家庭に対しての、避難に関する情報の周知（回覧板の活用） ・危険箇所等防災に関する地域情報の集約 ・災害時の対応について、町内毎の取り組み状況の把握とノウハウの共有 ・70歳以上の夫婦又は一人暮らし世帯への火災報知器の無償設置 ・災害時の避難等に関する周知を図る（町内毎のハザードマップ・避難経路の説明会の実施） ・ハザードマップの定期的な更新 ・障がい者の避難場所の整備 ・防災意識の向上を図る（防災訓練の実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区全体に対しての防災情報の周知・啓発（自治協への働きかけ・連携） ・地域の事業所との連携（情報の共有） ・防災における関係団体、関係機関との連携強化 	
愛 着 を 持 っ て 新 生 地 域 に つ	暮 ら し 全 般	環境及び地域団体に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しルールが守られていない ・地域団体の活動内容が分からない ・マンション等が多くコミュニケーションがとりにくく、交流が難しい ・熊本城の景観という点も含め、マンション建設等により地元住民の暮らしの変化が著しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・井芹川クリーン大作戦等を通じて世代間交流を図る ・SNSを通じて情報伝達を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・井芹川クリーン大作戦 ・チャリティー餅つき ・城下町菓子博 ・各種団体、地域行事の情報発信 	